

— 人権情報誌 —

# あい・ゆ KYOTO

I・YOUきょうと

わたしとあなた……。それぞれが「愛」と「優」の心をいつも大切にたがいを認め、支え合うまち・京都を。

2005.12  
vol.21



## ◆ ヒューマンボイス

ありのままの自分を表現すれば  
障害は乗り越えられる

———— テノール歌手 あらがき つとむ 新垣 勉 さん

## ◆ 特集

ユニバーサルデザインって  
なんだろう？

## ◆ 人 輝いてま〜す！

障害があっても  
当たり前前の生活ができる  
社会を目指して

◆ 日本自立生活センター（JCIL）  
◆ アクセス・ツアー・コーディネーター 香田晴子さん

## ◆ シリーズ 共に考える人権③

「気付くことから始めよう」

～身近な出来事から人権を考えてみる～

◆ こんなこと・あんなこと みんなの広場



# ありのままの 自分を表現すれば 障害は乗り越えられる

あら がき つとむ  
新垣 勉 テノール歌手  
さん

幼い頃、助産師の過ちで失明、また両親との別離という苦い経験をし、一時は「自分ほど不幸な人間はいない」とさえ考えたという新垣勉さん。しかし、歌を通して多くの人と出会い励まされることで、これまでの憎しみが消え、感謝の気持ちを抱くようになったといいます。魂を震わせる心温まるハートフルなコンサートを国内外で開催する傍ら、学校や教会、病院などで、「オンリーワン（唯一無二）の人生を大切に」と訴えかけています。10月29日には、ここ京都においても「ヒューマンステージ in KYOTO」の催しの中で、すばらしい歌声をご披露いただき、数多くの皆様に感動を与えました。

今回はテノール歌手として精力的に活躍されている新垣さんに、障害のある人も含めた様々な人々と共生することの意義、そして平和に対する思いなどについて、お話を伺いました。

## ほんの少しの手助けがあれば 障害があっても輝ける

僕が小さい頃、障害のある人は外へ出てはいけない、家の外には出さないという風潮がありました。家にお客さんが来ると、部屋の片隅に追いやられたりしてね。「(障害があることが) 恥ずかしい…」という気持ちがあったのでしょいうね。でも僕は、わざとお客さんの前に出て行って、話をするんです。もともとプラス思考なのかもしれません。「障害者のどこがいけないんだ！」っていう反発心をいつも心のどこかに持っている、そんな子どもでした。





父は沖縄米軍兵、そして両目の失明。人種と障害という2つのハンディを背負って、僕は生きてきました。今なら、とても表現できないような心ない言葉を投げかけられたことも少なくありません。最近では「バリアフリー」、  
「ユニバーサルデザイン」という概念もずいぶん社会に浸透し、例えばパソコンが音声で動いたり、点字表示をする公共施設が増えるなど、ハードの面では整備されつつあります。しかし、現在でも障害があるという理由だけで、希望する大学（学部）に進学できない、就職できないというバリアが存在するのも事実です。障害のある人でも、周りの人たちがほんの少し手助けさえすれば、そしてその人にやる気さえあれば、いろいろな分野で活躍できるんだということを知ってほしいのです。障害のある人に対するソフト（意識）面での改革を今後期待したいですね。

## 「人が生きる意義を伝えること」 それが命の教育

視覚障害者というのは、「目が見えない」というだけで、皆さんと何も変わりません。だから、国語や算数は点字のテキストを使うので、同じ教科書を開くのは難しくても、体育やクラブ活動は一緒にできるはず。私自身、大学生の時、障害のない友人と同じように勉強し、キャンパスライフを楽しみました。試験の前日、突然、寮が停電したことがあったんです。友人はみんな大慌てでしたが、私は点字のテキストを使っていたので、暗くても関係ありません。友人たちが僕のところに集まってきて、「この部分を読んでくれないか」と頼まれたこともありました。たとえ、目が見えなくても、僕の心にはバリアはないし、友人もありのままの僕を受け入れてくれてたんです。本当に感謝しています。

障害のある人もない人も、小さい時から一緒に過ごせば、自然に「共生」の意味を理解できるようになります。同時に、どんな人だって病気や事故、その他の理由で障害者になるかもしれないのです。障害を自分のこととしてとらえ、生・病・老・死を見つめ直してみる。その中から、自分と他の存在に対するいたわりや、思いやりをはぐくむことができるのではないのでしょうか。知識をつめ込むことだけが教育の目的ではありません。“命の教育”とは人が生きることの意義や使命、それを明確に伝えること。そういうことだと思います。

## マイナスの出来事であっても プラスのエネルギーに変えてゆく

僕が本格的に音楽の勉強をするようになったのは、35歳を過ぎてからのことです。恩師のヴォイス・トレーナー、A.バランドー二氏から「君の声は多くの人を励ますことのできる素晴らしい声だ」と言われたのがきっかけでした。両親からもらった声を褒められたことで、これまでの憎しみが心から消えていくような思いがしました。聖書のなかに「恨みはしないけれど、根には持つ」というフレーズがあります。例えば、僕が生まれた時、助産師さんが誤って劇薬を点眼して目が見えなくなってしまったこと、あるいは、父親が僕を置いてアメリカに帰ってしまったことなど、恨みはしないけれど、決して忘れることはできません。“根に持つ”というのは、それをしっかりと自分の肝に銘じて、これからの肥やしにすること。私が経験してきたマイナスの出来事をプラスのエネルギーに変えるということなんです。

もちろん、それには大変な時間がかかると思います。でも僕は、多くの人たちと出会い、様々なメッセージをもらうことで乗り越えてきました。特に僕が今でも心に残っている言葉があります。それは、大学時代に哲学の先生から「君の心の中には、1冊の本を10冊にも膨らませる能力がある。だから、自信を持って勉強しなさい」と言われたことです。知識欲が旺盛だった当時、あの本も読まなければならない、この本も読まなければならないという状況にもかかわらず、テキストを個人点訳してもらっていたので、たくさんの本が読めず、なかなか思うように勉強がはかどりませんでした。そんな時にかけてもらった言葉なのです。自分自身を認めてもらったように、本当にうれしかったですね。決して忘れられない思い出です。

## 「平和」ってなんだろう？ 改めて考えてほしい

“歌”っていうのは、人間の生の声なんです。わずか数分の中に、これまで自分が経験してきた人生の集大成を表現しなければならない。僕より歌のうまい人はたくさんいます。でも、人を“感心”させることはできても、“感動”させるのは本当に難しいことなのです。恋を知らなければ、恋の歌なんて歌えませんよね。平和の意味を知らなければ、平和の歌なんて歌えない。嘘や偽りのない素直な思いをいかに伝えることができるか、その気持ちが皆さんの共感を呼び起こすのだと思います。

僕は沖縄県の読谷村よみたんそんで生まれました。第二次世界大戦中、唯一、地上戦があった悲劇的な場所です。しかし、戦争がなければ、僕は存在しなかったかもしれません。僕が今、生かされていること、これも何らかの意味があるのではないのでしょうか。改めて、故郷の沖縄、日本、世界のために何ができるんだろうかと考えたとき、歌を通して平和の尊さを伝えるしかないと思ったんです。

それでは、「平和」って何でしょうか。今まではみんなが同じ一つの考え方になること、これが平和だと信じられてきました。でも、僕はそうは思わない。例えば、オーケストラにはいろいろな楽器がありますよね。トランペットがフルートの音色を出すことなんてありません。トランペットはトランペット、フルートはフルートというように、それぞれ個性的な楽器が集まっているからこそ、そこに美しいハーモニーが生まれるのです。人間だって同じこと。お互いに協調するけれど、個性を尊重するということが平和。童謡詩人の金子みすゞさんの「みんな違って、みんないい」というフレーズがありますが、それは一人ひとりが“ナンバーワン”ではなくて、“オンリーワン”なんだ。誰にも真似できない、唯一無二の生き方を大切にしようということなんです。

## 自然体で生きることの 大切さ

僕はいつでも“自然体”でありたいと思っています。「こうでなくてはいけない」「こうあるべきだ」ということではなく、皆さんの前で精一杯歌って、その中で共感してくれる部分をほんの少しでも見つけてもらえればそれでいいと。目が見えるとか、見えないとかは関係ないのです。その人が持っている肩書きや能力を取り払って一人の人間として相対した時、何を残すことができるかということです。僕は歌を歌い始めて25年以上になりますが、メジャーデビューしたのはほんの4、5年ほど前で



す。それなのになぜ多くの皆さんがコンサートに足を運んでくれるかというと、ステージで歌うありのままの僕に共感してくれているからだと思うんです。コンサートに来てくれるお客さんが僕を押し上げてくれたんです。これからも、僕が経験してきたことや平和に対する思いを、自然体で皆さんに発信していければ素敵なことだと思います。

### PROFILE



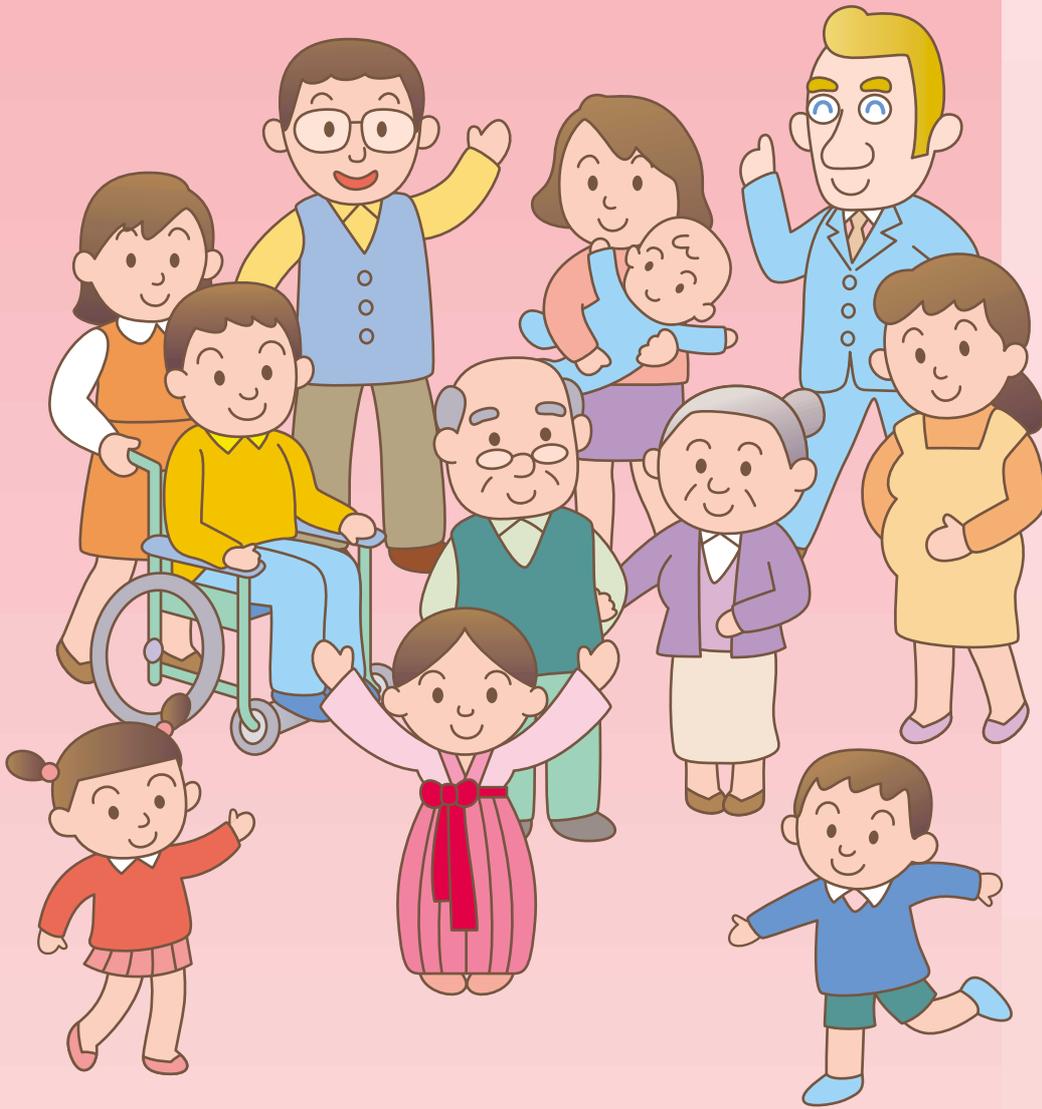
新垣 勉 [あらがき・つとむ]  
1952年沖縄県読谷村よみたんそんでアメリカ人の父と日本人の母の間に生まれる。生後まもなく助産師の過ちで失明。1歳のときに父親がアメリカに帰国し、母が再婚したため中学まで祖母に育てられる。その後、祖母が亡くなり天涯孤独となるが、一人の牧師と出会い、そこで家庭の温かさを知ったことが立ち直りのきっかけとなった。東京キリスト教短期大学、西南学院大学卒業、副牧師の経験を経て、35歳の時、武蔵野音楽大学音楽科に入学。A.バラドー二氏やB.ベラ

ガッティー氏などに認められ、テノール歌手として頭角を現す。2001年初のアルバム『さとうきび畑』をリリースし、クラシック界では異例といわれる大ヒットを記録。その他、アルバム『出逢い～我が心の歌』『願い～愛と平和の歌』など多数。ステージから平和や命の尊さについて訴え続けている。2005年7月、ニューアルバム『命どう宝～沖縄の心 平和への祈り』をリリース。



命どう宝  
～沖縄の心 平和への祈り

# ユニバーサルデザインって なんだろう？



## みんなにわかりやすい、 使いやすい、安全、快適

「ユニバーサルデザイン」という言葉をテレビや新聞で見かけたことはありませんか？「ユニバーサルデザイン」は、年齢、性別、文化、心身の状態といった、人間の様々な個性や違いにかかわらず、誰もが生活しやすい社会環境をみんなでつくっていかうとする考え方のことです。

京都市では、長い歴史を重ねてきたまちや暮らしの中に、「ユニバーサルデザイン」を取り入れて、もっとみんなが暮らしやすく、訪れたい京都を目指して、「京都市みやこユニバーサルデザイン推進条例」を施行しました。

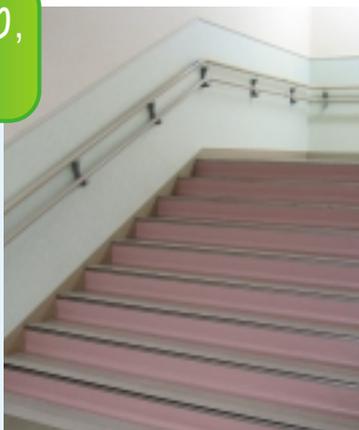
今回は、身の周りにあるユニバーサルデザインの事例をご紹介します、みんなが一人ひとりの多様な個性や違いに気付き、行動することの大切さを考えていきたいと思います。

# まちやぐらしの ユニバーサルデザイン

子どもや高齢者 妊娠している人やベビーカーを押している人 ケガをしている人 身体の不自由な人 言語の違う人 両手に荷物を抱えている人 背の高さや力の強さなど 人の様々な特性や違いにかかわらず 誰もが利用しやすいように配慮された環境が まちやぐらしの中に広がってきています。

## 階段の2段手すり、 踏み場の色分け

高さの違う2段手すりは、子どもや高齢者も握りやすくなっています。また、階段の踏み場もわかりやすく色分けされています。



## 高さの違う カウンター



低いカウンターのある受付や窓口は 車いすに乗っている人や、大人から子どもまで、背の高さにかかわらず利用しやすくなっています。

## ノンステップバス

床面が低く、乗降口の階段がないので、身体の不自由な人や 小さな子どもから高齢者まで、誰にでも乗り降りしやすいようになっています。



## 絵文字入りの 案内サイン



ひと目見てわかる 絵文字入りの案内サインは、感覚的にわかるので、字の読めない子どもや外国の人にもわかりやすくなっています。

## シャンプーの ギザギザ



シャンプーの容器にはギザギザがついていまずので、目の不自由な人だけでなく、洗髪中に目を閉じていてもギザギザのないリンスと区別できます。

## 4か国語表記の 観光案内図

できるだけ多くの人たちにわかりやすいように、日本語、英語、ハンゲル、中国語、の4か国語で建物等を表示しています。



# みんなのところに ユニバーサルデザイン

いくら施設が整っていても、私たち一人ひとりが使う人のことを理解していなければ意味がありません。誰もが暮らしやすくなるように、私たち一人ひとりが、いろんな人の「困った」に気づき、助け合う、思いやりのところと行動が大切です。



## みんなに使いやすく配慮された道路も

目の不自由な人、車いすを利用している人、ベビーカーを押している人がぶつかったり、通れなくなってしまうので、歩道に自転車や看板を置かないようにしましょう。



## みんなに 使いやすい 多目的トイレも

みんなが使えるトイレでも、それしか利用できない人のことをよく考えて利用しましょう。

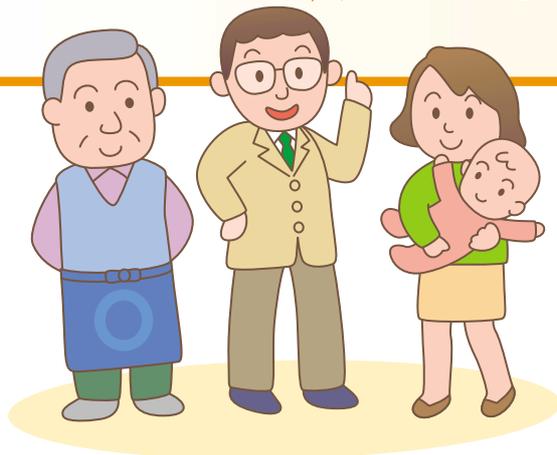


## 障害のある人のための駐車場で

車いすを利用する人など、障害のある人のための駐車スペースには、障害のない人は車をとめないようにしましょう。

# みんなが進める ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインが社会に広がっていくためには行政 事業者 市民等がそれぞれの役割のもとで主体的に行動し 互いに協力し合うことが必要です。京都市では 条例に基づきユニバーサルデザインの考え方を実際の行動へと橋渡しするための「指針」の策定を進めています。詳しくは、下記までお問合せください。



京都市保健福祉局保健福祉総務課

☎ 075-222-3366 FAX 075-222-3386

Eメール

hofukusoumu@city.kyoto.jp

ホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/hofukusoumu/ud>

# 障害があっても 当たり前前の生活ができる 社会を目指して

「日本自立生活センター(JCIL)」では障害のある人たちが自由に社会生活を送ることができるように、自立のための相談やアテンダント(有料介助者)の紹介送迎サービス車いす介助講習や旅行の企画など、様々な活動に取り組んでいます。相談を受ける7名のスタッフも障害があり、JCILを利用する人たちと同じ立場で問題を考え、サポートを行っています。

今回はご自身も脳性小児麻痺<sup>まひ</sup>で、運動障害や言語に障害がありながら、JCILにおいて「障害のある人のための旅行」を企画・実施されているアクセス・ツアー・コーディネーターの香田晴子さんにお話を伺いました。

## 同じ立場だからこそ できるサポートがある

自立した生活を望む障害のある人たちの拠点となっている「日本自立生活センター(JCIL)」で精力的に働くスタッフの香田晴子さん。彼女もかつては先輩スタッフのサポートを受ける立場でした。

「このJCILに来る以前は共同作業所<sup>1</sup>に10年間通っていました。当時の作業所は親たちが中心となって運営されていて、自由な意見も言えず若い人が普通に話す会話ができにくい雰囲気でした。自立をしたいと望んでも周囲の人にはいつまでも子ども扱いをされて「贅沢だ」「できるわけがない」と言われるだけでした。でも私は兄弟もいないので将来親が亡くなればいずれ一人で生きていかなくてはなりません。それで何とか自分の力で生きていくことができるようになりたいと思っていました。そんな時、養護学校の先輩の紹介でJCILのピアサポート<sup>2</sup>を受けました。初めて真剣に自分の思いを受けとめてくれ大人として扱ってもらえたことが私の中ではとても大きかったです」と当時を振り返ります。

JCILのサポートを受けてから1年ほど経った頃、香田さんは自立するために行動を開始します。まずグループホームで3年ほど訓練し、そこである程度自分で生活できるだけの力をつけてから、アパートを借りて一人暮らしを始めました。近所とのコ



金閣寺にて(©鹿苑寺)

日本自立生活センター(JCIL)  
アクセス・ツアー・コーディネーター 香田晴子さん

ミュニケーションがうまくとれないなど苦勞も多く険しい道のりでしたが持ち前の意思の強さで乗り越えたそうです。的確なアドバイスを受けながら少しずつ課題を克服していけば、障害のある人の自立は決して「できるわけがない贅沢」ではないのです。

JCILには香田さんと同じように将来に不安を抱く人、施設を出て一人暮らしを模索している人等が相談に訪れます。その心情を理解し共感してくれる仲間(スタッフ)の存在は大きく、また自立を成功させた先輩たちの姿は相談者の励みにもなります。介助者を紹介したり様々な支援制度の情報提供を行うなど、どんなサポートが有効かは同じ道を通ってきたスタッフだからこそ適切なアドバイスができるものです。香田さんも「私自身の経験からサポートできることがたくさんあります。障害の種類や程度によって状況は違いますが力になるスタッフが何人もいますから、悩んでいる人はぜひ相談に来ていただきたいですね」と、障害のある人にJCILの利用を呼びかけています。



ハワイワイキキビーチにて

## 苦勞の連続でも 旅行から得るものは大きい

障害があるとどうしても外出の機会が少なくなりがちです。けれども移動は社会生活の基本です。JCILではリフト付車両による送迎サービスで日常の移動をサポートしているほか、行動範囲と視野をさらに広げ、自立生活に必要な社会的能力を身に付けるために「障害のある人のための旅行」を企画しています。1989年アメリカでのリフト付バス体験ツアーを皮切りに、沖縄 北海道 ハワイ オーストラリア イタリアなど国内外に出掛け、先進事例の視察や各地域の障害のある人との交流などを行ってきました。

「うちの旅行は電動車いすで行くのが基本なんです。もちろん介助者がつきますが、普段使っている車いすで自分の意思でいろんな所を回ってほしいんです。「疲れたけれど自分で電動車いすを操作して自分の行きたい所に行くことができ良かった」と次も参加される方が多いんです」と熱く語ります。でも、旅行となると事前の入念な準備が必要不可欠です。旅行会社と繰り返し打ち合わせを行い、ひとつの旅行を計画してから実際に実施するまで約半年の時間をかけています。

旅先での苦勞も数知れません。「飛行機に乗る場合、電動車いすは荷物扱いとなりバッテリーなどを分解して預けるため、日本の航空会社では出発の2時間前に預ける必要があり、15分



前まででよいアメリカの航空会社とは対応が違います。」また、「アメリカではまちのほとんどでバリアフリー化が進み、人も大らかで私たちが自然に受け入れてくれる感じがします。ハワイではデパートに入ろうとした時も近寄ってきてドアを自然に開けてくれました。一方で京都と同じ歴史都市のフィレンツェを訪れた時は、道路は石畳が多くバリアフリー化も進んでいなくて車いすで

散策すると腰が痛くなって大変でした。また私たちへの接し方も日本人と似ていて少し距離を置いているようなところがあり、国民性の違いを感じました」と国による違いを指摘します。しかしながらこうしたことは視野を広げればこそ見えてくるもの。苦勞しても旅行経験から得るものは多くたとえ日帰りでも達成感には十分にありま。11月には電車を使って神戸へ出掛け高級ホテルに宿泊して豪華な食事を堪能したとか。大切なことは、誰もがやってみたいと思うことを実行することです。

## 障害のある人が外に出ることで 社会の見方が変わる

現在共同住宅に住む香田さんが大切に考えているのが近所付き合いです。障害があっても自立して生活をしている人がいるということを知ってもらうためにたとえゴミをひとつ拾うことしかできなくても団地の掃除の日にも進んで参加しています。

「仕事が終われば同僚とお酒を飲みに行き愚痴を言うこともあります。世の中は健常者が中心ですが障害者も健常者と全く同じなんです。健常者も障害者になる可能性を持っています。健常者が障害者になったとしたらきっと悲観して絶望的になりそうですが、それでは生まれつき障害がある人は生まれた時から絶望的なのかというと、そんなことはありません。私は楽しんで生きています。健常者から見ると私をかわいそうと思う人が多いのですが、当事者の気持ちを知らないままに思い込まないで同じ目線で見てほしいですね」と穏やかに話します。

思い込みによる心のバリアが障害のある人に身体的な制約だけでなく社会的な制約をも強いることになります。「障害者ももっともっと外に出ることで健常者の見方も変わるはず。だから外へ出てほしい。健常者が障害者になった時でも以前と同じ生活ができる、そんな社会になってほしいと思います」。こういう気持ちがあるからこそ香田さんは障害者を取り巻く様々な問題についてのシンポジウムや学習会などにも積極的に参加しています。

今後は「障害のある人の自立を促しサポートすると同時に後継者の育成にも取り組みたい」と意欲的です。そして将来の夢はまちもバリアフリー化され人々も温かく接してくれるハワイに永住することだそうで、「永住が無理でもせめて留学だけでもできたらいいなあと思うんです」と少し照れながら話します。それはかつて「自立なんて無理」と決めつけられていた頃には、思いもつかなかった夢でしょう。自立して仕事を持ち国内外を旅した歩みのなかで芽生えた夢。香田さんがいきいきと活動



北野天満宮にて

を続けることで彼女と同じように障害があっても自らの可能性を信じて大きな夢を抱く人が増えるに違いありません。

1 / 共同作業所  
重度又は雇用されることが困難な在宅の障害のある方が通所し生活指導及び作業指導等の訓練を行い障害のある方の自立更正と社会参加を図ることを援助する施設

2 / ピアサポート  
障害のある方が自らの体験に基づいて、同じ悩みを持つ他の障害のある方の相談に応じ同じ立場でサポートしあうこと

### 日本自立生活センター( JCIL )

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町13-1  
連絡先：075-682-7950 ホームページ：<http://www.jcil.jp/>



人権連続講座

# 2005 もっと知りたい人権の輝き

人権はすべての人が自分らしく幸せに生きるために必要な権利です。毎日の暮らしの中でお互いの権利と人権を守るために私たちはどう行動すればよいのでしょうか。一人ひとりが自分自身の問題として考えていただくきっかけとしていただければと思います。



三瀬 顕さん

**1** 平成18年 2月2日[木]  
講演会 **弁護士生活笑百科**

笑顔で語る人権 定員 / 300名

講師 **三瀬 顕さん** 弁護士

時間：14:00～(受付は13:30～)

会場：ルビノ京都堀川



鈴江俊郎さん

**2** 平成18年 2月25日[土]  
知りたい ききたい 定員 / 360名  
**ユニバーサルデザイン**

芝居「かおりの冒険と遠い風」

上演 **劇団八時半** 作・演出 / 鈴江俊郎

講演会 **すべての人が響き合う社会へ  
ユニバーサルデザイン,そしてサービス**

講師 **井上滋樹さん**

(株)博報堂コーポレートコミュニケーション局情報デザイン1部 部長

時間：14:00～(受付は13:30～)

会場：アバンティホール



井上滋樹さん

**12** いずれも

**受講無料**  
先着順

申込方法

事前申込が必要です。

はがき・FAX・人権文化推進課ホームページからお申込みください。

はがき 〒604-8571(住所記入不要)京都市人権文化推進課

FAX 075-222-3194

URL <http://www.city.kyoto.jp/bunshi/jinken/>

住所・氏名(ふりがな)・電話番号・受講希望日(連続も可)を明記してお申込みください。

**申込締切 平成18年1月13日(金)必着**

先着順。定員に達し次第締め切ります。

託児(1歳以上就学前)手話通訳 要約筆記を希望される方は、その旨を明記してください(補聴器用磁気ループ設備あり)。

お問い合わせ先

文化市民局人権文化推進課

☎222-3381 FAX 222-3194

## 第16回 識字展

識字は人権獲得への歩みです

1990年の「国際識字年」を契機に始まり、今年で16回目を迎えるこの識字展。識字が基本的人権にかかわる重要な課題であり人間としての尊厳を保障するための大切な営みであることを、一人でも多くの市民の皆さんに知っていただくため、今年も開催致します。

識字学級・郁文中学校の二部(夜間)学級・京都市の外国人教育・世界の識字問題・障害のある人々の学習活動等の作品やパネル等を展示します。

平成17年 12月10日(土) 11:00～15:00  
[第8回京都市PTAフェスティバルと同時開催]

国立京都国際会館 イベントホール(地下鉄烏丸線「国際会館駅」下車すぐ)

お問い合わせ先

教育委員会生涯学習部 ☎222-3800 FAX 222-3760

## 第19回 京都市地域リハビリテーション交流セミナー

テーマ **自己実現に向けて** 入場無料  
事前申込み不要

～あなたがあなたであるために～ 平成18年 2月9日(木)

第一部:「はたらくこと」シンポジウム 13:00～15:40

第二部:「たのしみこと」バリアフリー落語 北文化会館ホール

主催 | 京都市(京都市身体障害者リハビリテーションセンター)  
京都市地域リハビリテーション協議会

お問い合わせ先

京都市身体障害者リハビリテーションセンター相談課 ☎823-1666

## 第35回 憲法と人権を考える集い

演劇 / 新屋英子ひとり芝居

「**身世打鈴**」 在日オモニの  
身の上話

先着850名【無料】申込不要

平成17年12月4日(日) 13:00～  
同志社大学寒梅館ハーディーホール

お問い合わせ先 / 京都弁護士会 ☎231-2336



身体障害者の独身の方、  
人生の新しい門出を希望される方々、  
京都身体障害者結婚相談所  
をご存じですか?

ご相談日時

月・水・土・第2日曜日

(翌月曜日は代休)

午後1時～5時

お問い合わせ・ご相談

TEL/FAX 075-682-1593

E-mail / [fureai@aioros.ocn.ne.jp](mailto:fureai@aioros.ocn.ne.jp)

URL / <http://www1.ocn.ne.jp/fureai-i/index.html>

**京都身体障害者結婚相談所**

〒601-8321 京都市南区吉祥院西定成町35 京都市洛南身体障害者福祉会館内

# 人権月間 [各区役所・支所の催し]

手話通訳を希望される方は事前にお申し込みください  
(既に事前申込を終了している場合がございますのでご了承ください)

12月	日時・場所	内容など 詳細については各区役所・支所のまちづくり推進課までお問い合わせください。	入場無料 当日直接
1 [木]	14:00 ~ 下京区役所 定員50名	<b>人権学習会</b> 講演:「人権古今模様」 講師:大取一馬さん(龍谷大学文学部教授)	下京区役所 まちづくり推進課 ☎ 371-7170 FAX 361-8893
2 [金]	19:00 ~ アバンティホール 定員350名	<b>心のふれあいみんなの広場 講演会</b> 講演:「～人権は身近な問題～みんな尊い命だから」 講師:林家染丸さん(落語家)	南区役所 まちづくり推進課 ☎ 681-3417 FAX 671-9653
4 [日]	14:30 ~ 呉竹文化センター 定員600名	<b>人権を考える映画会</b> 映画「機関車先生」	伏見区役所 まちづくり推進課 ☎ 611-1144 FAX 611-0634
8 [木]	14:00 ~ 同志社大学寒梅館(ハーディーホール) 定員350名	<b>講演のつどい</b> 講演落語:「真の笑いは平等な心から」 講師:桂文福さん(落語家) <b>本事業は手話通訳がございません</b>	上京区役所 まちづくり推進課 ☎ 441-5040 FAX 441-2895
9 [金]	13:00 ~ 北文化会館 定員400名	<b>人権月間記念事業</b> 講演:「笑いと言情が人の輪をひろげる」 講師:林家染二さん(落語家) 映画:「学校」	北区役所 まちづくり推進課 ☎ 432-1208 FAX 441-3282
9 [金]	13:30 ~ 東部文化会館ホール 定員600名	<b>講演と映画の集い</b> 講演:「愛という名の奇跡～難病・引きこもりを乗り越えて“光のステージ”へ～」 講師:ESPERANZA エスペランサ(フルーツ・オカリナ&ベース演奏) 映画:「バリアフリー社会を考える」	山科区役所 まちづくり推進課 ☎ 592-3088 FAX 502-8881
10 [土]	13:30 ~ 京都教育大学藤森学舎 定員450名	<b>ふしみ人権の集い 第2回学習会 ~若い世代からの人権メッセージ~</b> 講演:「人生も教育もあきらめない」暴走族からボランティアへ～元総長と小学校教員との出会い～ 講師:工藤良さん(ふれ愛義塾代表) 山下晃司さん(ふれ愛義塾総務長)	深草支所 まちづくり推進課 ☎ 642-3203 FAX 641-0672
11 [日]	14:30 ~ 京都会館会議場 定員300名	<b>心のふれあいみんなの広場</b> コンサート:「“原点にして究極の音楽”～音楽で人の輪～」 アカベラグループ:PYLON(パイロン)	左京区役所 まちづくり推進課 ☎ 771-4211 FAX 761-0054
11 [日]	13:30 ~ 醍醐交流会館ホール 定員200名	<b>人権を考える講演会</b> 講演:「外国籍区民の人権～ともに生きる社会をめざして」 講師:仲尾宏さん(世界人権問題研究センター理事・京都造形芸術大学客員教授)	醍醐支所 まちづくり推進課 ☎ 571-6135 FAX 571-2673
16 [金]	15:00 ~ ウイングス京都 定員80名	<b>人権講演会</b> 講演:「母さん笑って」 講師:小林泉さん(女優) <b>本事業は事前にお申し込みください</b>	中京区役所 まちづくり推進課 ☎ 812-2426 FAX 841-8182

## 障害者週間

12月3日(土)～9日(金)

京都市では「ノーマライゼーション」の理念の実現に向け街頭啓発キャンペーンや市長表彰・講演会を行います。これを機に障害のある市民もいない市民もすべての市民がお互いを認め合い支え合いながらいきいきと暮らせる社会の実現に向けて、市民の輪を広げていきましょう。

12月 平成17年度  
3日(土)「障害者週間」市民啓発事業

### 街頭啓発

時間 10:00～11:00  
場所 京都タワー前ほか10箇所  
啓発物品等を配布し、  
街頭啓発を行います。

お問い合わせ先 / 保健福祉局障害企画課 ☎ 251-2385

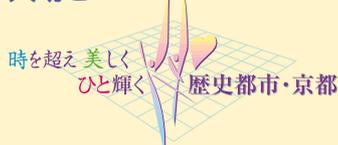
## 京都市障害者福祉大会

時間 13:30～16:20(13:00受付開始)  
会場 呉竹文化センター  
市長表彰  
講演:「困難を乗り越え強く生きる」  
～人と人助け合う心、人間として最も大切なこと～  
講師:濱宮郷詞さん

定員 600名 入場無料 申込不要  
要約筆記・手話通訳

編集後記 / 今号の「人輝いてます!」の香田晴子さんは私が担当する別の事業で一緒にさせていただいた縁で取材をお願いしました。その前向きな考え方を伺っていると、こちらがつい時間を忘れて会話に夢中になってしまう、そんな魅力ある人です。(T)

同じです  
あなたとわたしの  
大切さ



本誌は年3回(5月8日、12月)発行します。区役所・支所のまちづくり推進課 市役所の市政案内所ほかで配布しています。郵送をご希望の方は 返信用切手(140円分)を同封のうえ京都市人権文化推進課までお申し込みください。

発行日 平成17年12月1日  
発行 京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課  
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地  
☎ 075(222)3381  
http://www.city.kyoto.jp/bunshi/jinken/  
京都市印刷物第173121号